



## 2022年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年10月13日

上場会社名 株式会社 日本色材工業研究所  
 コード番号 4920 URL <http://www.shikizai.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 土谷 康彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理・財務部長 (氏名) 霜田 正樹

TEL 03-3456-0561

四半期報告書提出予定日 2021年10月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年2月期第2四半期の連結業績(2021年3月1日～2021年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第2四半期	4,354	14.3	190		121		116	
2021年2月期第2四半期	5,081	16.7	181		189		135	

(注) 包括利益 2022年2月期第2四半期 87百万円 ( %) 2021年2月期第2四半期 138百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第2四半期	55.47	
2021年2月期第2四半期	64.46	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第2四半期	15,345	3,003	19.6	1,432.94
2021年2月期	15,550	3,090	19.9	1,474.67

(参考) 自己資本 2022年2月期第2四半期 3,003百万円 2021年2月期 3,090百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期		0.00		0.00	0.00
2022年2月期		0.00			
2022年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年2月期の連結業績予想(2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,066	0.8	71		22		109		52.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年2月期2Q	2,099,376 株	2021年2月期	2,099,376 株
期末自己株式数	2022年2月期2Q	3,520 株	2021年2月期	3,520 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年2月期2Q	2,095,856 株	2021年2月期2Q	2,095,856 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき記載しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想とは異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8
(後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2021年3月1日～2021年8月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の再拡大（第4波、第5波）に伴い、主要都市を対象とした3度目、4度目の緊急事態宣言が発出されるなど、ワクチン接種は開始・進展しましたが、引き続き新型コロナウイルス感染症が国内外の経済活動に大きな影響を与えており、景気の低迷が継続しています。欧米各国ではワクチン接種の進展に伴い都市封鎖（ロックダウン）が解除されるなど、ワクチン接種の進展度合いなどに応じて地域や国による跛行性が見られますが、依然として先行き不透明な状況が続いております。

化粧品業界におきましても、メイクアップ製品を中心に、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けております。国内では、商業施設の営業時間短縮・臨時休業や、消費者の外出自粛ならびにマスク着用の常態化により個人消費が低迷、さらに、わが国への入国規制強化による訪日外国人旅行者の激減に伴うインバウンド需要の蒸発により、化粧品需要はメイクアップ製品を中心に大きく減少したまま推移しています。海外においても、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症の影響等により化粧品需要は大きく減少、先行き不透明な状況が続いておりますが、ワクチン接種の進んだ地域や国では各種の感染症対策が緩められる事によって経済活動の再開や消費の回復が見られるように、化粧品需要の回復においても地域や国による跛行性が見られる状況です。

当社グループにおきましては、2017年度からスタートした「中期事業戦略ビジョン(2017-2021)」のもと、「生産能力の増強」ならびに「グローバル化の加速化」の実現に取り組んでまいりましたが、想定外の新型コロナウイルス感染症発生・拡大と影響の長期化により、厳しい環境のもとで事業活動を強いられております。「生産能力の増強」施策として取り組んだ「つくば工場第3期拡張工事」や海外子会社における設備投資によって実現した生産能力を活用しきれない状況が続いており、2021年8月には吹田工場閉鎖を余儀なくされております。

今後、ワクチンの接種率が高まり、ブースター接種導入で効果が維持されることで新規感染が抑制され、罹患者に対する治療薬も導入されていくことにより、経済活動や化粧品需要の回復を期待するものの、新型コロナウイルス感染症の収束のタイミングやスピードが不透明な中、まずは営業赤字からの早期の脱却、そして新型コロナウイルス感染症拡大以前の業績水準への早期回復に向けて一歩一歩着実に改善を重ね事業基盤の再構築を図ってまいります。特に当面は、新型コロナウイルス感染症下における化粧動向を反映した処方・生産技術の開発ならびに品質や安全性の向上に加え、ニューノーマルの時代に即した事業戦略の再構築などを通じて、新しい環境での強みを伸ばして業績の速やかな回復を図るべく更なる努力を重ねてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績は次のとおりとなりました。

売上高は、国内で①新型コロナウイルス感染症対策としての外出自粛やマスク着用の常態化によるメイクアップ化粧品の消費需要の減少、②訪日外国人旅行者によるインバウンド需要の激減、③世界的な新型コロナウイルス感染症拡大による海外向け製品受注の減少、ならびに④新製品企画の先送りの影響が引き続き大きく、加えてフランス連結子会社も当第2四半期連結累計期間は新型コロナウイルス感染症の影響で減収となったことから、前年同期比14.3%減の4,354百万円となりました。

利益面では、「つくば工場第3期拡張工事」竣工等に伴い諸費用が増加している中で売上高が減少したことにより、営業損失は190百万円（前年同期は営業損失181百万円）、補助金収入107百万円等の計上により経常損失は121百万円（前年同期は経常損失189百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は116百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失135百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における所在地別セグメントの業績の概況は、次のとおりです。

(日本)

上記のとおり新型コロナウイルス感染症の拡大によって国内外の化粧品需要が急速に減少した結果、国内・海外化粧品メーカー各社からの受注が減少したことから、売上高は前年同期比10.1%減の3,360百万円となりました。利益面では、「つくば工場第3期拡張工事」竣工等に伴い諸費用が増加している中で売上高が減少したことで、営業損失の計上となりましたが、経費圧縮努力等により158百万円（前年同期は営業損失330百万円）となりました。

(仏国)

子会社THEPENIER PHARMA & COSMETICS S. A. S.（以下「テプニエ社」という）の所在する欧州は、当第2四半期連結累計期間（1～6月）において、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて景気が低迷する中で、テプニエ社の売上高も1,019百万円と、新型コロナウイルス感染症の影響のほぼ無かった前年第1四半期（2020年1～3月）を含む前年同期（2020年1～6月）対比で26.0%減と大幅な減収となり、利益面でも大幅減収に加えて設備投資に伴う諸費用の増加等もあって、営業損失は31百万円（前年同期は営業利益145百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、204百万円減少し、15,345百万円となりました。総資産の減少は、流動資産が42百万円、固定資産が162百万円減少したことによるものであります。流動資産の主な減少要因は、現金及び預金が33百万円、受取手形及び売掛金が53百万円、たな卸資産が130百万円減少し、電子記録債権が135百万円、その他が40百万円増加したことによるものであります。固定資産の主な減少要因は、建物及び構築物が121百万円、機械装置及び運搬具が95百万円減少し、投資その他の資産のその他が81百万円増加したことによるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末に比べ、117百万円減少し、12,342百万円となりました。負債合計の減少は、流動負債が142百万円増加し、固定負債が259百万円減少したことによるものであります。流動負債の主な増加要因は、支払手形及び買掛金が99百万円、電子記録債務が53百万円、短期借入金が89百万円増加し、賞与引当金が41百万円、その他が59百万円減少したことによるものであります。固定負債の主な減少要因は、長期借入金227百万円、その他が49百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、87百万円減少し、3,003百万円となりました。主な減少要因は、株主資本が親会社株主に帰属する四半期純損失により116百万円減少し、その他の包括利益累計額合計が28百万円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、5百万円増加し、964百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、372百万円（前年同期は19百万円の減少）となりました。これは主に、減価償却費386百万円、たな卸資産の減少額143百万円、仕入債務の増加額148百万円等による増加と、賞与引当金の減少額41百万円、売上債権の増加額67百万円、未払消費税等の減少額67百万円、税金等調整前四半期純損失124百万円等による減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、159百万円（前年同期は1,152百万円の減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出127百万円、長期貸付けによる支出68百万円等による減少によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、213百万円（前年同期は1,366百万円の増加）となりました。これは主に、長期借入れによる収入720百万円と長期借入金の返済による支出903百万円、リース債務の返済による支出47百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の通期の連結業績予想につきましては、2021年10月6日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,078,582	1,044,992
受取手形及び売掛金	1,504,068	1,450,260
電子記録債権	125,004	260,207
たな卸資産	1,864,005	1,733,168
その他	147,716	188,678
流動資産合計	4,719,378	4,677,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,258,016	5,136,493
機械装置及び運搬具（純額）	1,627,640	1,532,403
土地	2,155,986	2,156,424
その他（純額）	440,226	443,960
有形固定資産合計	9,481,869	9,269,281
無形固定資産	372,306	354,528
投資その他の資産		
投資有価証券	491,338	470,968
その他	493,823	575,593
貸倒引当金	△7,966	△1,836
投資その他の資産合計	977,195	1,044,724
固定資産合計	10,831,371	10,668,535
資産合計	15,550,749	15,345,842
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	371,459	471,390
電子記録債務	447,214	500,572
短期借入金	1,855,408	1,945,322
賞与引当金	41,166	—
その他	832,732	773,136
流動負債合計	3,547,981	3,690,421
固定負債		
長期借入金	8,099,696	7,872,268
役員退職慰労引当金	146,430	146,430
退職給付に係る負債	70,121	86,796
その他	595,816	546,687
固定負債合計	8,912,064	8,652,182
負債合計	12,460,046	12,342,603
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,104	714,104
資本剰余金	943,209	943,209
利益剰余金	1,220,652	1,104,396
自己株式	△3,857	△3,857
株主資本合計	2,874,109	2,757,852
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	254,893	240,420
為替換算調整勘定	△38,299	4,965
その他の包括利益累計額合計	216,593	245,386
純資産合計	3,090,703	3,003,238
負債純資産合計	15,550,749	15,345,842

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 （四半期連結損益計算書）  
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2020年3月1日 至 2020年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2021年3月1日 至 2021年8月31日）
売上高	5,081,597	4,354,034
売上原価	4,638,785	3,970,268
売上総利益	442,811	383,766
販売費及び一般管理費	623,959	574,501
営業損失（△）	△181,148	△190,735
営業外収益		
受取利息	900	1,387
受取配当金	3,845	3,639
補助金収入	8,650	107,235
雑収入	14,134	8,144
その他	9,935	5,017
営業外収益合計	37,466	125,426
営業外費用		
支払利息	45,496	56,496
その他	95	68
営業外費用合計	45,591	56,564
経常損失（△）	△189,273	△121,873
特別損失		
固定資産除却損	20	2,186
特別損失合計	20	2,186
税金等調整前四半期純損失（△）	△189,294	△124,059
法人税、住民税及び事業税	45,017	4,877
法人税等還付税額	—	△12,680
法人税等調整額	△99,207	—
法人税等合計	△54,189	△7,803
四半期純損失（△）	△135,104	△116,256
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△135,104	△116,256

（四半期連結包括利益計算書）  
（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2020年3月1日 至 2020年8月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2021年3月1日 至 2021年8月31日）
四半期純損失（△）	△135,104	△116,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,621	△14,473
為替換算調整勘定	△16,550	43,265
その他の包括利益合計	△2,928	28,792
四半期包括利益	△138,033	△87,464
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△138,033	△87,464
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△189,294	△124,059
減価償却費	389,795	386,201
賞与引当金の増減額 (△は減少)	83,813	△41,166
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,422	13,930
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△56,509	△6,320
受取利息及び受取配当金	△4,746	△5,027
支払利息	45,496	56,496
固定資産除却損	20	2,186
売上債権の増減額 (△は増加)	279,384	△67,129
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△43,567	143,826
仕入債務の増減額 (△は減少)	△508,507	148,875
未払金の増減額 (△は減少)	△250,930	34
未払消費税等の増減額 (△は減少)	215,334	△67,878
その他	31,935	△19,308
小計	△6,352	420,660
利息及び配当金の受取額	4,230	8,755
利息の支払額	△44,605	△56,398
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	27,338	△38
営業活動によるキャッシュ・フロー	△19,388	372,979
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△40,000	△40,000
定期預金の払戻による収入	40,000	80,122
有形固定資産の取得による支出	△1,031,486	△127,412
無形固定資産の取得による支出	△41,191	△4,493
投資有価証券の取得による支出	△1,261	△484
非連結子会社株式の取得による支出	—	△11,770
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	△1,662	—
長期貸付けによる支出	△79,677	△68,148
長期貸付金の回収による収入	3,268	12,541
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,152,010	△159,645
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	35,760	16,856
長期借入れによる収入	1,980,000	720,449
長期借入金の返済による支出	△544,456	△903,183
リース債務の返済による支出	△52,179	△47,540
配当金の支払額	△52,438	—
その他	—	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,366,686	△213,421
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,641	5,317
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	193,647	5,229
現金及び現金同等物の期首残高	754,545	959,557
現金及び現金同等物の四半期末残高	948,192	964,787

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

I 前第2四半期連結累計期間（自 2020年3月1日 至 2020年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,704,341	1,377,255	5,081,597	—	5,081,597
セグメント間の内部売上高又は 振替高	33,516	—	33,516	△33,516	—
計	3,737,857	1,377,255	5,115,113	△33,516	5,081,597
セグメント利益又は損失（△）	△330,596	145,059	△185,536	4,388	△181,148

（注）1. セグメント利益又は損失の調整額4,388千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	仏国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,334,507	1,019,527	4,354,034	—	4,354,034
セグメント間の内部売上高又は 振替高	26,286	—	26,286	△26,286	—
計	3,360,794	1,019,527	4,380,321	△26,286	4,354,034
セグメント損失（△）	△158,023	△31,604	△189,627	△1,107	△190,735

（注）1. セグメント損失の調整額△1,107千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（後発事象）

（固定資産の譲渡）

当社は、2021年9月28日開催の取締役会において、固定資産の譲渡を決議するとともに、2021年9月28日付で売買契約を締結し、2021年10月8日に譲渡が完了しております。

1. 譲渡の理由

当社は、2021年3月23日付「工場閉鎖に関するお知らせ」にてご案内のとおり、弊社吹田工場を8月31日に閉鎖いたしました。その後、当該工場跡地の購入希望があったことから譲渡することといたしました。

2. 譲渡資産の内容

資産内容および所在地	譲渡価額	帳簿価額	譲渡益	現況
吹田工場 (大阪府吹田市幸町24番1号) ・土地 (771.48㎡) ・建物 (1,543.35㎡)	103百万円	16百万円	83百万円	工場跡地

※譲渡益は、譲渡価額から帳簿価額、譲渡に係る費用等の見積額を控除した概算額であります。

3. 譲渡先の概要

名称	社会福祉法人 燦愛会
所在地	大阪府吹田市幸町22番5号
代表者	理事長 井上 光博
事業内容	特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスの経営 等
設立年月日	2000年8月1日
当社との関係	譲渡先と当社との間には特記すべき資本関係、人的関係および取引関係は無く、また、当社の関連当事者には該当しません。

4. 当該事象の損益に与える影響額

当該固定資産の譲渡に伴う譲渡益は、2022年2月期第3四半期決算において83百万円を特別利益に計上する予定であります。